

目的 高齢者の衣服設計に関しては着用実態や体型把握，寝たきり老人の寝衣の研究等多方面からの報告がなされている。本研究では，高齢者の快適な睡眠を得るための基礎的な寝衣の条件を追求すべく，寝床内衣服内温湿度を測定し，若年者と比較検討を行なった。さらに，寝衣着脱について，高齢者の動特性より，着脱しやすい寝衣の条件を検討した。

方法 被験者は，高齢者2名，若年者2名の健康な女性である。温度20度，湿度60%の人工気象室で，デザイン及び素材の異なる和式寝衣6種類，洋式寝衣4種類の着用時における腹部等6箇所の寝床内衣服内温湿度を，30秒毎に入床後2時間測定した。同時に，入床時と2時間睡眠後に，肌触り・着心地・ゆったりさの官能検査を行なった。また，4種類の寝衣の着脱動作分析では，運動軌跡（肩峰点・肘点・指先点・膝点・足先点）及び所要時間から，高齢者と若年者の着脱動作を比較検討した。併せて，各寝衣の着脱のしやすさについて官能検査を行なった。

結果 高齢者は若年者に比べ，腹部の温度が他の部位よりも顕著に低く，入床後10分の温度上昇率も，温湿度の変化幅も若年者の方が大であった。また，和式寝衣は洋式寝衣よりも保温性が高いことが認められた。寝衣着脱動作分析では，高齢者は若年者に比べ，洋式寝衣のズボン着用時の股関節，膝関節の屈曲や，ボタンをはめる時の各指関節の屈曲等にぎこちなさが見受けられた。洋式よりも和式寝衣の方が運動軌跡は大であるが無駄な動きは少なく，着用感も和式寝衣の方が良効であるという結果が得られた。